



6. マイワシ *Sardinops melanostictus*

(Temminck and Schlegel) 図版2

英名 Japanese sardine, spotted sardine, Japanese pilchard

露名 グリニフストーチナヤ サルディナ
дальневосточная сардина

地方名(北海道) イワシ、ナナツボシ、ヒラゴ、オオバ、ヒライワシ

漢字 真鱒

アイヌ語名 イワシ、アルワンノチウ、アンパチエツボ

【形態】 体は細長く、腹部がやや側扁*する。体の背側*は青緑色または暗緑色で、腹側*は銀白色である。ナナツボシとも呼ばれるように、体側に7個前後の黒点が1列に並ぶが、斑点の数をもっと多いものや、2～3列並ぶものもある。全長*は約25cmに達する。近縁種のカタクチイワシ *Engraulis japonicus* は下あごが著しく短く、ウルメイワシ *Etrumeus teres* は眼に厚い脂瞼*がある。ニシン *Clupea pallasii* はマイワシより体高*が高い。

【生態】 マイワシの資源水準は数十年周期で大きく変動し、それとともに分布範囲も大きく変化する。資源の高水準期には日本近海を中心に黄海と東シナ海、日本海全域、オホーツク海、北西太平洋に広く分布し、低水準期には分布域が縮小して、九州、四国、本州の沿岸域が分布の中心となり、北海道では津軽海峡からおしま渡島半島東岸でわずかにとれる程度になる。

日本周辺のマイワシは産卵生態や回遊*状態などから、太平洋系群*、足摺あしずり

系群、日本海系群、九州系群の4系群に分けられる。しかし資源の高水準期には各系群の回遊範囲が重複し、黒潮*系の太平洋系群と日本海側の対馬暖流*系群の2系群になる。産卵場と索餌*場との間で季節的に回遊し、春～夏には水温の上昇とともに索餌のため北上し、秋～冬には水温の低下とともに南下し、越冬する。

成熟*体長*は18cm、初回成熟年齢は2歳前後である。資源の高水準期には3歳で初めて成熟する個体が多く、低水準期には成長が速くなり、約半数が1歳で成熟する。産卵期は12月から翌年の6月までと長い、盛期は太平洋で2～3月、日本海では3～6月である。雌は1産卵期に数回産卵し、1個体当たりの総産卵数*は約10万粒になる。

産卵場は本州、四国、九州の沿岸域にあるが、資源の高水準期には産卵域が拡大するとともに、その重心が西にかたより、暖流の上流域である薩南海域*から九州西岸が主産卵場となる。

ふ化後1年で体長が約15cm、2年で約18cm、3年で約20cmに成長する。寿命は7年以上とされる。餌として仔稚魚*は甲殻類のノープリウス*幼生*などの動物プランクトンをとるが、成長が進むにつれ鯰*が発達して小さな餌をこし取ることができるため、植物プランクトンを多く食べるようになる。